News Letter

答えを急がない時間を、現代の日常に。愛知の若手アーティストと共創する「2027 年 アート・コラボレーション・カレンダー」制作レポート

2026 年 10 月27日
株式会社アイワット 事業推進 広報室

「クリエイティブコミュニケーションの力で人の心を動かし、共感の波紋を広げる」。
私たちアイワットは、このパーパスを体現する新たな試みとして、2027 年版の自社カレンダーを地域の若き才能と共創する「アート・コラボレーション・カレンダー」としてお届けします。

世界的な AI・ロボティクス技術の発展により 10～20 年後には日本の労働人口の 49％が人工知能やロボット等で代替可能になると予測されています[1]。そうした環境下で人間にしか生み出せない「創造性」がかつてなく重視されています。特に、既存の価値観が通用しない VUCA の時代においては、明確な答えを探すのではなく、まず取り組むべき「問い」を模索し続ける柔軟な思考が組織に求められています。こうした中、現代アートが提示する社会への洞察や多様な解釈を受け入れる力は、私たちが新たな価値を創造するための重要な役割を担っています。

常に「正解」や効率を求められがちな日々の中で、答えを急がない心地よい余白を皆さまの日常に届けたい。そんな想いからスタートした本プロジェクトの、熱気あふれる制作の裏側をレポートします。

＊才能との出会い。林 柚里さんのアトリエへ

記念すべき初回のパートナーにお迎えしたのは、名古屋の現代アートシーンで若手作家の発掘と紹介に力を入れる「MOMO GALLERY」様と、同ギャラリーで独自の表現を展開する気鋭のアーティスト・林 柚里（はやし・ゆり）さんです。暑さ盛りの 7 月末日、アイワットのメンバーで林さんのアトリエを訪問しました。林さんは現在、次代の文化芸術を担う若手アーティストの飛躍を支える愛知県の活動支援事業「Aichi クリエイティブ BASE」の拠点を知人作家と共同で利用し、作品を創作しています。

ドアを開けると油絵の具の薫りが立ち込め、空間を埋める作品群の色彩と質感、そこに宿る作家たちの静かで確かな熱量が伝わってきました。日々の生活で目に留まった植物や動物など



【アトリエ訪問時の様子、壁や床一面に数々の作品が配置されていた】

[1] 株式会社野村総合研究所は、英オックスフォード大学のマイケル A.オズボーン准教授およびカール・ベネディクト・フレイ博士との共同研究により、国内 601 種類の職業について、人工知能やロボット等で代替される確率を試算しました。結果、10~20 年後に、日本の労働人口の約 49％が就いている職業において、それらに代替することが可能との推計結果が得られています。（株式会社野村総合研究所プレスリリース,2015）

を独自の瑞々しい視点で捉え、突き動かされるようにキャンバスへと向かう林さん。その鮮やかで繊細な表現のエネルギーに圧倒されながら、カレンダーという「小さな美術館」にどの作品を展示するか、ギャラリー様も交えて白熱したキュレーションの対話が交わされました。アーティストとの直接的な対話は、私たちアイワット関係者の視点をひらき、プロジェクトのコミュニケーションを大いに刺激する貴重な機会となりました。

＊クリエイティビティとの交差。自社スタジオ撮影、12カ月のシリーズ化、色彩再現

選ばれた原画たちは、いよいよアイワットの自社撮影スタジオへ。ここからは、私たちのクリエイティビティの見せ所です。





【左：当社スタジオでの作品撮影の様子／右：レタッチ後のデータによる色校正の様子（いずれもギャラリー様、作家様ご協力のもと）】

カレンダー紙面で、いかに原画の持つ筆致や絵の具の盛り上がりを再現できるか。作家自身の立ち会いのもと、社内カメラマンと制作スタッフが息を合わせ、1 ミリの妥協も許さない緻密なレイアウト、ライティング、撮影を進行しました。そしてデザインの力が、作品の静謐で雄弁な存在感を活かしながら、カレンダーとしての機能との美しい融合を叶えます。

さらに、ほとばしる色彩を紙面上で再現すべく、一つひとつの作品に対する画像レベルでの色補正が行われました。レタッチと印刷のプロフェッショナルによる妥協を許さない調整案を関係者全員で隅々まで確認し、納得のいく色調を採用全作品の31点分選び抜きました。この月々を彩る作品シリーズは、世界にここだけのカレンダーとして生まれようとしています。

＊12 月、ご縁のつながる皆さまのお手元へ

ビジネスにおける芸術活用のあらゆる効果が明らかにされていますが、日本のアート市場規模は世界全体のわずか 4%に留まり（2020 年時点）、芸術家 1 人当たりの年間売上高は広告業やデザイン業などと比較して特に低い水準にあるのが実情です[2]。カレンダーというメディアを通じて地域の才能を広く社会へ紹介し、正当な対価をもって次代の文化インフラを支えることは、私たちアイワットが実践できるささやかな芸術支援（メセナ）の第一歩です。

単に日付を確認するだけではなく、オフィスやご家庭に豊かな対話を生み出すコミュニケーション・ピースとして、現在、印刷・製本という最終工程に向けて、原画の息遣いまで再現する当社独自の高精細印刷技術（「idot」アイドット）のすべてを注ぎ込み、着々と準備を進めています。12 月、当社が確かな誇りを持ってステークホルダーの皆さまへお届けします。どうぞご期待ください。

---

[2] 芸術家業の 1 従業員当たりの年間売上高は約 280 万円、広告業（3490 万円）やデザイン業（1210 万円）などと比較しても、アーティストへの資金供給が特に低い水準にあります。

《MOMO GALLERY 様紹介》

https://momo-gallery.com/

築 100 年以上の元古美術店を改装した、名古屋市東区のアートギャラリー。この地域の若手作家を中心に、さまざまな表現を紹介しています。

《株式会社アイワットの会社概要》

- 社名：株式会社アイワット（https://www.iwat.co.jp）
- 事業内容：コミュニケーション領域における顧客の課題解決
- 広報・広告・販売促進のコミュニケーションプランニングから、印刷物・デジタルメディア・映像・イベントなど各種施策のクリエイティブプランニングおよび制作、開発、実施まで
- 本社：愛知県名古屋市中区新栄 1-7-22
- 拠点：名古屋・東京・横浜・静岡・大阪・豊田工場
- 創業：1950 年（昭和 25 年）5 月
- 代表者：代表取締役社長 岩田修平

当ニュースレターに関するお問い合わせ先
株式会社アイワット　広報室　担当・鷲見（直通番号 090-1412-8935）
代表番号：052-251-9169／mail: i kouhou@iwat.co.jp
※当ページ掲載写真を転用・転載する場合には上記連絡先まで事前にご連絡ください。

参考文献

1　労働人口の AI 代替予測について
株式会社野村総合研究所「日本の労働人口の約 49%が人工知能やロボット等で代替可能に」（2015 年）
2　日本のアート市場シェア・アーティストの売上高について
経済産業省「令和 3 年度 文化資本経営促進に関する調査研究事業 成果報告書」（2022 年）
（※原典：Art Basel and UBS "The Art Market 2021"／総務省「経済センサス-活動調査（2016 年）」）